

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 あかしあ), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2 TEL 011-377-8373), 自己評価作成日 (令和3年12月6日), 評価結果市町村受理日 (令和4年2月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvoCd=0171300072-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年1月17日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパーやバス停に至近の住宅街に位置している。地域住民とは常に関わりを持ちながら共に助け合い、且つ頼りになる事業所として運営、今年で22年目を迎えている。サービスの基本姿勢は4項目の理念に沿い、さらにスローガンを掲げ、今年度もコロナ禍の現状に向き合っている。事業所内では互いに認め、助け合う関係作りを進めており、職員間で良案を出し合い、庭先で初の焼き芋会を開いたり、降車しないドライブや人気の少ない場所でお茶やアイスを楽しむ機会など、感染症強化策と閉じこもらないケアの両立を考慮しつつ、今までの質の高い利用者支援に加えて初めてのイベントやケアサービスにチャレンジしている。利用者の日常は過不足なく家族に報告し、家族の安心にも応えている。医療受診も訪問やオンライン診療等の取り入れで、不安の少ない健康管理体制である。また、一昨年から看取りケアに取り組み、本人にも最後の居場所の聞き取りに努め、家族の希望に添ってきめ細かな支援を行っている。事後に職員間のグリーフケアも行い、終末の時を共に過ごす事の意味を確認しながら、心を込めたケアの実践に取り組んでいる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は4つあり、全職員が周知している。理念を踏まえた上で日々のケアにあっている。	事業所のサービスの在り方を示した理念は、利用者一人ひとりの生活構築への礎として全職員に浸透している。管理者は所内の現状を踏まえたスローガンを作り、今年度は「とりあえずやってみよう！」を職員と共有し、日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍という事もあり、利用者が地域の一員として日常的に交流を持つ事は難しいが、町内会に入っている事や運営推進会議を通じて地域とのつながりを持ち暮らしている。	コロナ禍の中で各種の交流活動は自粛や中止になっているが、町内会役員と連絡を取り合ったり近隣と挨拶しあうなど、変わらない関係を継続している。地域住民からウエスや絵手紙、カレンダーの寄贈なども頂いている。現在は以前のような相互交流の再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が中心となり活動をしている。現在はコロナ禍という事もあり、リモートで地域の方々に対し同業者と共にグループホームの説明をする場を開くなどしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	極少人数でホームでの取り組みや利用者の日常について、事故や活動報告、困っている事等を報告しあっている。外部の方々は電話などで聞き取りし意見交換をしている。	令和3年1月より書面会議とし、事前に推進委員から意見や情報を聞き取り、議事録の送付で事業所や地域の実情を共有している。懸案とされるコロナ禍の外出支援に関し、他事業所の取り組み状況を得て検討議案に挙げ、サービスの向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が中心となり、市の担当者と連絡を取り事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。協力関係を築けるよう取り組んでいる。	感染症対策では、市担当者から詳細な情報発信やワクチン摂取券の直接配布があり、連携しながら予防強化に取り組んでいる。運営や業務上の協働のほか、管理者は行政の主催事業に積極的に協力し、認知症に関するリモート講師や介護関連会議の役員を引き受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束について学ぶ機会を持っている。身体拘束にあたる具体的な行為についての理解もしている。ただ、ホームの立地上玄関の施錠はしているが、拘束に近いグレーな部分であるのは理解している。	指針やマニュアルをもとに、2か月ごとの委員会では適正化に向け基本事項を学び、繰り返し確認できるようにしている。声のトーンや気になる言葉等は互いに注意し合い、施錠も含め利用者の行動の抑制にならぬよう認識を深めている。センサー使用の場合は家族の同意と介護計画により検証をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主にリモートを活用しながら定期的に高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持っている。利用者の事業者内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。利用者の中にも保佐人が付いている方も実際に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居契約時にこまかく説明をしている。説明中にも都度、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図った上で契約をとっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等に意見、要望がないか来設時だけでなく電話やメールなどでも伺っている。また外部へ表せるよう重説にも連絡先を載せるなど運営に反映させられるよう努めている。	現在は、ガラス越しやリモートでの面会であり、電話や毎月の事業所便り、定期のメールで日々の様子を報せている。家族からの自由な面会の要望には、状況を見極めつつできる限りの対応を心掛けている。参集での運営推進会議に代え家族アンケートによる意見の吸い上げを検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を管理者に伝え代表者まで伝えている。その中で反映できるものは可能な限り実現できるよう努力している。	職員間では会議や業務の中で意見を交換し、互いに認め助け合う姿勢を共有している。管理者は、随時職員に声を掛け意見等を聞き取り、個別事情に配慮した勤務調整や休日、研修等の希望を受け止め、働きやすい就労環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとり一人の家庭環境や希望の勤務体制、努力している部分、やりがいなど把握するように努め、できる範囲希望に沿えるような職場作りに努めている。互いに助け合える、認め合える関係作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握できるよう努めている。また、法人内外の研修を受けることができる機会を確保し、学んだことを働きながら実践していけるよう推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍という事もあり同業者と交流する機会は今もなかなか持てないが、感染状況をみながら定期的に北広島市の介護サービス連絡協議会の役員会に参加し、意見交換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時、ご本人が困っている事、不安な事、要望等には特に耳を傾けている。ご本人との関係づくりを意識しながら安心感を持っているよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様サービスを開始する段階で、ご家族等が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。最初は特に連絡を取り合い報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族にとってまず必要としている支援が何かを見極めた上でできること、できないことを確認しサービスに繋がられるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の必要な支援を探りながら必要な介護を行うよう努めている。暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう、お手伝いや教えてもらう等で支え合う関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご家族の協力を得る事で共に支えていく関係を築いている。可能な限りご家族の協力を上げるよう電話やメールを活用し関係性が良好になるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍となり、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を途切れないよう支援する事は難しいが、可能な限りリモート面会やガラス越しでの面会を行い途切れないよう支援している。	今までの馴染みの関係の継続を大切にしている。旧知の人からの電話や年賀状のやり取りを支援しているが、コロナ禍もあり家族以外の面会者はいない。自宅などへの外出も難しく、家族に愛犬の写真などを届けてもらい、寄り添いながら話を聞くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら、一緒に過ごす時間を持ってもらっている。お互いの負担にならないようにしている。関わりを持ちながら支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、ご家族から様子を伝えるハガキ等が届いたり、メールがきている。必要に応じて相談や支援にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員それぞれ関わりの中から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合でも反応やしぐさを読み取り把握できるように努めている。	利用者の思いや暮らし方の希望は、普段から具体的な問い掛けで汲み取っている。困難な場合は仕草や表情などノンバーバルな要素から推察し、過去のアセスメントや家族の情報を参考に本人の意向に近づけるよう検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居後に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めながら職員間で情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努め、その時々々の状態に合わせたケアや支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でご本人がよりよく暮らすための課題とケアのあり方について会議で話し合い共有している。必要な関係者との話し合い、意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は定期や入退院など変化時に見直している。3か月ごとに利用者、家族の意向を主にその人らしい暮らしをイメージして課題を抽出している。毎月全職員でモニタリングを行い、本人の現状像を分かりやすく記した個人記録を生かして新たな計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫は個別記録や連絡ノート、日誌に記入し職員間で情報の共有をしている。実践や介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応出来るよう柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により難しいが、地域資源として町内会行事の参加等行っていた。現在は、絵手紙サークルの方がお誕生日に絵手紙のプレゼントをして下さっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	殆どの利用者は、協力医療機関の月2回の訪問診療を利用し、一時的なオンライン診療などの対応も柔軟に行っている。週1回の訪問看護は同じ医療機関から、また、歯科や皮膚科の訪問診療も整えており、適切な受診支援が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを訪問看護師に伝えて相談している。個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、安心して治療ができるように、また、できるだけ早期に退院出来るようにご家族や病院関係者との情報交換や相談に努めている。そのような場合に備えて病院関係者との関係づくりも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で話をしている。事前に事業所でできることできないことなど説明している。重度化してきた時に再度、十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に対するあり方は、入居時をはじめ、重篤の状況で繰り返し話し合い、説明と同意、意向を確認している。本人の意向も可能な限り聞き取り、主治医と家族、事業所の三者で支援方針を共有している。一昨年より数件の看取りケアに取り組み、本人と家族の思いに寄り添った終末期支援に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故発生時の応急手当や初期対応の訓練を行っている。また、不安がある職員は都度、対応についての実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震等の災害対策についての訓練は定期的に行っている。昼夜問わず利用者が避難できる方法を身につける努力をしている。地域との協力体制も継続して築いている。	10月に火災想定避難訓練と動画を活用した自然災害におけるシミュレーションを行っている。設備点検を終了し、3月に次回訓練を予定している。災害時における地域相互協力の体制を整えている。また、BCP業務継続計画も法人本部で作成に取り組んでいる。	課題であった発電機操作方法の訓練を実施している。コロナ禍により、あらゆる自然災害に対する訓練については今後も継続課題としてその取り組みの実践に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を把握した上でその方の人格を傷つけないよう支援に努めている。自尊心を損ねない言葉掛けや対応に努めている。	利用者一人ひとりの個性や力量の理解を深め、人格やプライバシーを損ねない支援を行っている。特に排泄面では誘導時やトイレ内での介助は必要な支援提供のスタンスに立ち、プライドや羞恥心に十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を表したり、自己決定できるような働きかけに努めている。意思を表しにくい方にも、どちらが良いか選択法を使うなどで対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルを把握し希望に沿ったケアを大切にし支援している。難しい場合でも希望に近いものを提供するなど努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にはその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。食べこぼし等で汚れた場合の身だしなみにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の負担にならないようお手伝いしてもらっている。野菜の皮むきやもやしの根取等をお願いしたり、食器拭きを楽しみにされている方がいる。	毎日の献立に利用者の意向を反映し、年3回の法人全体の食材コンテストでは上位の評価を受けている。感染対策を取りつつも利用者と食事を作る共同作業を大切にし、懐かしい料理やおやつ作り、時にはデリバリーも取り入れ、力の発揮や食への関心を高め、楽しみの多い食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量を提供している。栄養バランスも考えながらメニューを考えている。食事摂取量と水分量は記録に残し、必要な量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と食後には口腔ケアの促しをしている。一人ひとりの口腔状態やできる力に応じた支援に努めている。拒否される場合もあるのでタイミングを見て促すなどしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じ排泄表を利用し、トイレ誘導をしている。実際、誘導する事で排泄の失敗が少なくなって成果が出ている。今年で100歳になった方へも昼夜問わずトイレで排泄を促している。	排泄の失敗が続く場合はチェック表を活用して誘導支援を行っている。重度の人でもできる限りトイレで排泄できるよう介助している。その時の状態に即して昼と夜でパット類の大きさを変えたり、布下着の着用が続けられるよう、失敗時もさりげなく、且つきめ細かな対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、水分を多めに摂ってもらったり、乳製品等の提供をしながら排便の促しをしている。運動を行う事が難しい方もいるので個々に応じた対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度時間は決めているが、午前・午後と入浴時間を設けたうえで、一人ひとりのタイミングに合わせて個々の気分に沿えるように支援している。拒否される方もいるが無理強いせず納得した上での入浴を心掛けている。	午前と午後で希望の時間なども聞きながら、週2回以上の入浴を支援している。拒否が強いときは言葉を選んだり、清拭に変えるなど、本人の心情に沿いながら保清に努めている。ヒートショックに配慮し脱衣所は床暖になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じ静養を促したり、入床時間を前後している。安心して気持ちよく眠れるよう室温や湿度等に気を付けながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解するよう努めている。服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の負担にならない範囲で役割を持ってもらっている。張り合いや喜びのある日々を過ごせるように楽しみごとや気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍という事もあり、希望に沿えるように戸外に出かける事は難しいが、ホーム前で外気浴をして頂く等の気分転換や感染状況に応じてひと気のいないドライブ等の外出支援は可能な限り行っている。	自由な外出は困難だが、散歩やウッドデッキで外気浴をしたり、畑の収穫を楽しむこともある。感染状況を見極め、降りないドライブに出掛けたり、人と接触のない場所でお茶やアイスを食べることもあり、感染対策と閉じ籠ることのない支援の両立に向け良策を検討し実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つ事の大切さは理解している。ただ、コロナ禍という事もありお金を使えるような支援は難しいが、本人の希望を聞き取って代わりに買い物する支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおり、ご本人が必要に応じ電話している。また、電話が来れば取り次いでいる。ご家族と手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が不快や混乱をまねく事がないよう配慮している。ホールの壁には、季節ごとに飾りつけを変えたり、季節の歌を掲示したりしている。音楽をかけたたり居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各ユニットで造作は異なるが、行事写真や季節の装飾、利用者と一緒に製作した作品が掲示され、全体として温かみのある居心地良い設えになっている。感染予防にパーテーションやクリアパネルを使用しているが、行事の際は、顔を見合って楽しめるレイアウトにしている。温、湿度管理や換気に十分注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席で過ごす方が多いが、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう都度椅子を持って来たり、ホール内にソファを置き居心地の良い居場所となるよう工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、居室に使い慣れたものや好みのもを活かして快適に過ごせるような工夫をしている。認知症の進行により、モノがある事で混乱を招くようになった時もあるためご家族と相談しながら工夫して対応している。	馴染みの家具や大切な品々の持ち込みを勧め、環境不安を最小限にできるよう配慮している。居室は8畳ほどの広さがあり、ソファやテレビ、家族写真や縫いぐるみ等が自由に設置されている。整理整頓に留意し、利用者の状態に合わせて居室を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には表札を設置し、自分の部屋が分かるようにしている。他にもトイレと分かるようにしている。ホール内には、手摺の設置もされており自立した生活が送れるように工夫している。		